

1 学校教育目標 自ら学び、自信に満ちた児童の育成

総括的な教育目標を、より具体的な児童生徒や教師、学校の「姿」としてイメージする

2 学校経営ビジョン いつも(に)こにこ笑顔で(わ)かり聞いて(か)んがえる(は)つ(ら)め(は)し(か)ら(っ)つ(子)	<ul style="list-style-type: none"> ○育てたい子どもの姿 <ul style="list-style-type: none"> ・自ら学び考える子 ・心豊かで思いやりのある子 ・自主的。実践的態度をもつ ・たくましい子 ○育てる手だて <ul style="list-style-type: none"> ・指導3部「学び部」「心豊か部」「育ち部」の教育活動を構造的かつ有機的に展開する。 ・個性を磨き、集団の力を育む学級・学年経営を行う。 ○指導の根幹 <ul style="list-style-type: none"> ・授業で子どもを育てることを第一義とする。 ・「心を耕す」教育活動を推進する。 ・自らの伸びを自覚させ、児童同士の錬磨を促す。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学校三原則 ・礼を正す ・時を守る ・場を清める </div>
--	--	--

このうち、特に今年度力を入れるものを絞り込む。絞り込むに当たって、特に、前年度、「何ができて、何ができなかったか」を参考にする

3 本年度の重点目標 1 基礎学力保障を重点に学力向上を図る。 2 豊かな心を持ち、励ましながら頑張る児童を育成する。 3 集団づくり(仲間づくり)を強化し、深く考え、正しく判断し、自ら高まっていく児童を育成する。 4 自らの生活を見つめ、健康でたくましい児童を育成する。	4 前年度の成果と課題 ○本年度は、学校教育目標が新しく変わった1年目ということで認知度は低かった。 ○学力向上においては、国語科の校内研究の取組が初年度ということで、手探りの状態で様々な取組を行った。スーパーティーチャーを招聘し理論研・模範授業を行ったことで、23年度の方向性が見えてきた。一方、新学習指導要領における学力の3大要素の一つである「意欲」に課題があることも教師が感じているので、褒めて伸ばす取組を続けている。 ○児童・教師間共に「3つのあ」を実践した。生活の基本である「挨拶」「安全」「後片付け」を合言葉に指導し、着実に成果が上がってきている。今後も継続して指導を続けたい。特に、「安全」については、昨年の悲しい事故を受け、水難事故防止教室や交通教室の中で自己防衛力をあげる指導を行い、二度と悲しい事故が起こらないように力を入れてきた。 ○情報発信については、学校だより・学級だより・地域での会議だけでなく学校情報連絡サイトやHP等の内容を充実させ、継続発信・迅速発信を心掛けたい。 ○学力向上については、新教育課程完全実施で学び残し、学び漏れがないように、職員全員で共通理解を図りながら指導にあたり、基礎学力の定着、思考力・判断力・表現力の向上に努めたい。さらに、児童が「楽しい、やりたい」と思うような魅力ある教育課程の編成に努めたい。 ○心の教育では、達成感・自己肯定感が高まるような教育活動を行うとともに、地域の宝として地域から「ありがとう」をたくさん言ってもらえる教育活動を展開したい。
--	---

重点目標をそれぞれ再掲し、重点目標ごとに、成果や課題を具体的に評価するためには、どのような評価項目や指標を盛り込むべきかを考える

5 総括表				
① 基礎学力保障を重点に学力向上を図る。				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校経営方針	教育目標、本年度重点目標の周知	・教職員・児童・保護者地域住民に周知する。認知度を90%以上にする。	・職員会議、全校朝会で説明する。 ・PTA総会、保護者会、学校便り等で説明する。 ・地域には各種団体の会議等で説明する。また、公民館を通じて学校便りを配布し周知する。
学校運営	○教職員の資質向上	校内研究の充実、学年・学級経営の充実	・指導技術がさらに向上したと感じる教職員が90%以上を目指す。 ・学級経営の自己評価での達成率を85パーセント以上にする。	・学年グループの研究授業を行う。 ・研究会に参加し、学んだ指導理論や技術を報告する。 ・経営案に沿っての実践と学期毎の自己評価を行う。
教育活動	●学力向上	・学習意欲の向上と基礎的・基本的な学力の定着 ・「話す」「聞く」を核とした国語科の校内研究による分かる授業の実施	・学習プリントを全学級が効果的に利用する。 ・CRT検査において、全学年3ポイントあげる。 ・授業規律の浸透を図ると共に、よき話して、よき聞き手となるための授業研究を行う。	・利用についての研修会を行い、学習内容の確実な定着に向け、児童の実態に合わせた学習プリントづくりができるようにする。 ・朝の時間を利用したチャレンジタイムにおいて、プリント等による繰り返し学習を行うことで、基礎的学習内容の定着を図る。 ・校内研究と連動した授業づくりを工夫する。 ・国語科の研究を通して、他教科と関連づけた教育効果をねらう。
教育活動	○指導方法の改善	・有効性のある少人数指導やTT指導の充実を図る ・児童の授業満足度を高める。	・学習目標に応じて少人数やTTによる学習を取り入れ、各教科・領域で基礎・基本の定着を図る。 ・児童アンケート「TT授業や少人数授業の勉強は好きですか」で80%以上の児童が「好き」と回答が得られるようにする。	・複数の指導担当者による指導内容や方法の工夫・改善を継続していく、児童一人一人にきめ細かく対応していく。 ・児童の実態に応じて授業形態を工夫する。
教育活動	○小中連携	・系統性のある生活習慣・授業規律を確立する ・定期的・計画的な合同研修の実施	・小中連携を意識したアクションプランを作成し、9年間のスパンを見通した系統性のある指導を行う。 ・連携の推進のための組織作りを基本に、各セッションごとに、年間を見通した具体的な活動を行う。	・小中連携協議会の中で、組織的に指導が行えるように活動を進める。
② 豊かな心を持ち、励ましながら頑張る児童を育成する。				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策

教育活動	●心の教育	・道徳教育の充実 ・緑化活動の充実 ・集会を通して「心の教育」の推進	・「ふれあい道徳教育」を教育の日に全校一斉に授業として公開し、道徳教育の充実を目指す。 ・花の栽培やボランティア活動を通して豊かな心を養う。 ・児童の心情面を揺さぶるように集会活動を行う。	・「命」にかかわる授業をより重視し、保護者や地域の人と共有する。 ・「はーとふる集会」で、命・人権・仲間をテーマにし、児童への働きかけを行う。
教育活動	○学校図書館教育	・読書指導の推進	・全校児童の読書平均冊数、年間55冊を目指す。	・読み聞かせボランティアとの連携を図りながら、朝の読書タイムを活性化し、読書への関心を高める。

③ 集団づくり(仲間づくり)を強化し、深く考え、正しく判断し、自ら高まっていく児童を育成する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○教育相談及び生徒指導の充実	・児童理解のための校内研修の実施 ・不登校児童対策 ・支援を要する子の実態把握と具体的な対応策の実施 ・Q-Uテストの有効活用	・問題行動等の未然防止に努めるなど、予防・開発的指導に努める。 ・不登校傾向児童の早期発見に努める。 ・全校児童の中で、配慮を要する児童の実態について共通理解をし、全校的な支援体制の元に支援していく。 ・Q-Uテスト結果を分析し、児童のよりよい学校生活に生かす。	・「心豊か部」や子ども支援協議会等で情報交換を行い、個々の児童について共通理解を図るとともに、より具体的な対応を協議する。 ・児童の健全育成のため、保護者の協力(家庭力)を得るとともに地域との連携を図る。

④ 自らの生活を見つめ、健康でたくましい児童を育成する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
特定課題	●小学校低学年の学習環境の改善充実	・指導法改善による学習習慣・生活習慣の育成	・学習習慣の指導を繰り返す、95%以上の児童が身につくようにする。 ・特別支援教育の視点に立った児童理解・児童対応を実施する。	・生活習慣や学習習慣を身につけるための自己評価を行わせ、意識化させる。 ・アンケートや便りなどを通して、家庭との連携を図る。 ・学習形態を工夫し、児童が集中して話を聞いたり、考えを伝えたりできるようにする。
教育活動	●健康・体づくり	・たくましい体力、気力の育成	・日常の遊びや運動を通して、たくましい体力、気力を養う。	・授業中の姿勢に気をつけさせる。 ・外遊びを奨励する。
		・食教育の推進	・給食指導を充実し、望ましい食習慣の形成を図る。 ・給食を残さず食べる児童95%を目指す。また、食に感謝する態度を育てる。	・「食育」の授業実践を計画的に実施し、食の大切さに気づかせる。 ・食の大切さについて、保護者に啓発する。

本年度の重点目標の評価項目として含まれていない共通評価項目がある場合に記入する。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○危機管理体制の整備	・保護者・地域との連携 ・危機管理体制の整備	・「危機管理マニュアル」再検討し、緊急体制と連携システムの内容の実行化を図るなど職員の役割を明確にする。 ・避難指示の放送により、5分以内に指定場所へ安全に避難する。 ・自己防衛能力を高めるための避難訓練を実施する。	・マニュアルに沿った避難訓練(風水・地震・不審者)を実施する。 ・全校朝会等で、不審者等からの身の守り方を話し、児童の意識を高揚させる。 ・効率的かつ効果的な「緊急連絡システム」を構築する。 ・安全点検と共に日々の安全・安心へのきめ細かな気配りをする。
学校運営	○開かれた学校づくり	・保護者地域等との連携	・22年度授業参観日や学校公開日ののべ来校者が約1900名であったので今年度は、年間、保護者のべ2千名以上にしよう便り等で呼びかけていく。	・学校評議員会、民生委員会等の地区の諸会議や懇談会等に参加する。 ・保護者ばかりでなく、評議員、民生委員等に対しても学校に関する情報を発信し、連携を深める。 ・授業参観後のアンケートを活用し、今後の学校経営に生かし改善を図る。
特定課題	○特別支援教育	・児童理解の深化	・児童の状況の共有化を行い、児童支援に努める。 ・校内支援体をもとに、定期的な情報収集、指導方針等を協議する。	・年間計画に基づく情報交換を行い、効果的な指導を目指す。 ・複数のコーディネーターによる校内・校外との連携をさらに深める。

●は共通評価項目、○は独自評価項目